

経営比較分析表（令和6年度決算）

長野県 佐久水道企業団

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A3 | その他 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金(円) | |
| - | 91.70 | 75.97 | 3,685 | |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| - | - | - |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 116,252 | 171.45 | 678.05 |

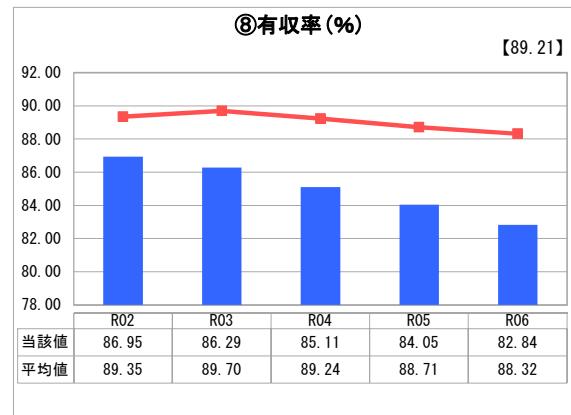
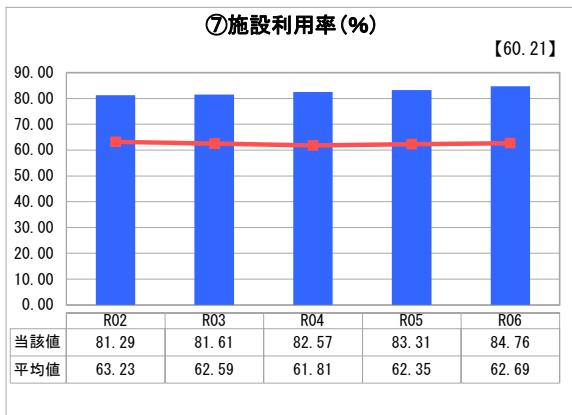
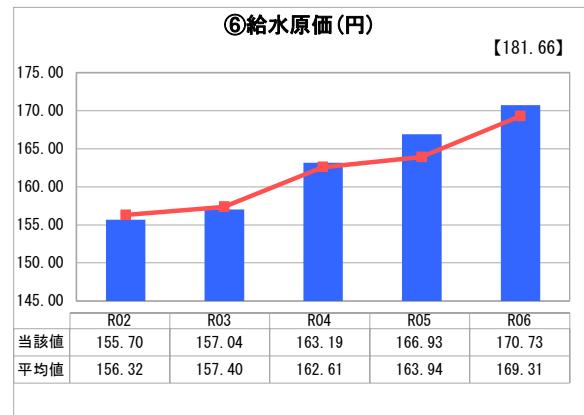
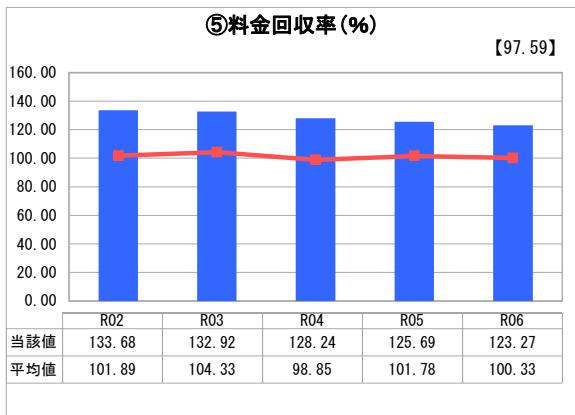
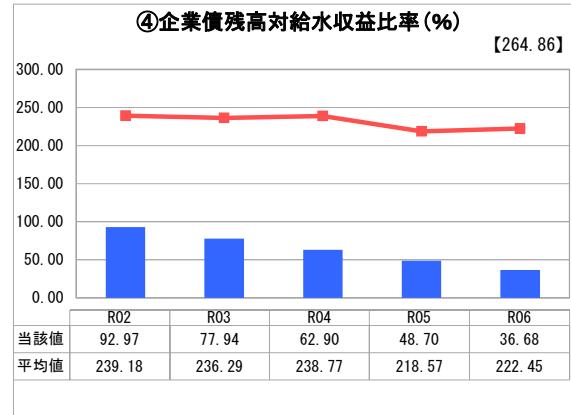
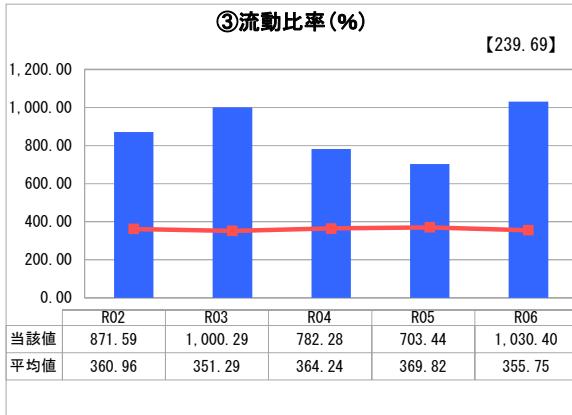
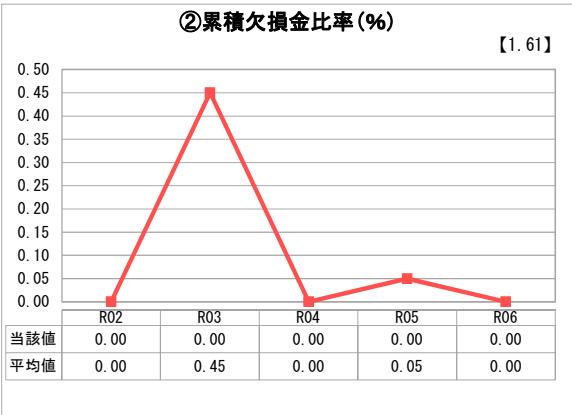
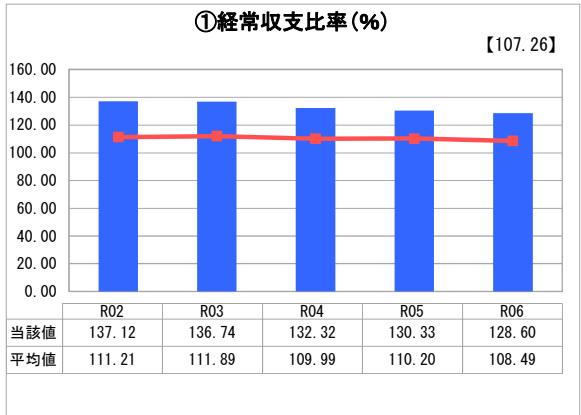
| グラフ凡例 |
|----------------|
| ■ 当該団体値（当該値） |
| - 類似団体平均値（平均値） |
| 【】令和6年度全国平均 |

分析欄

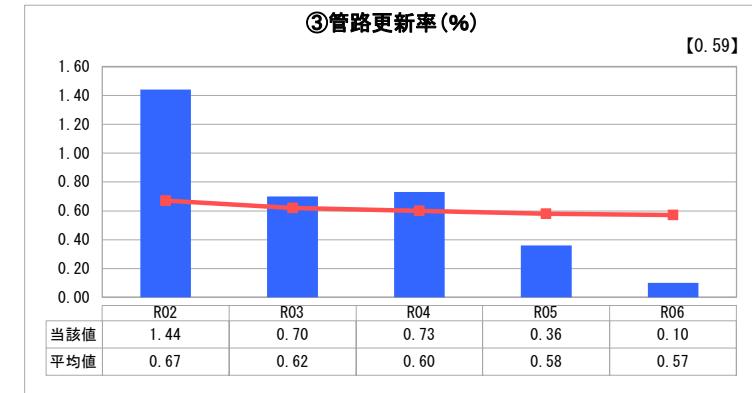
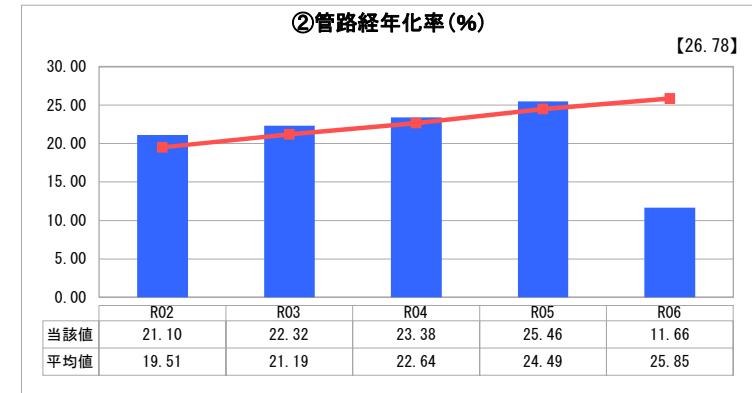
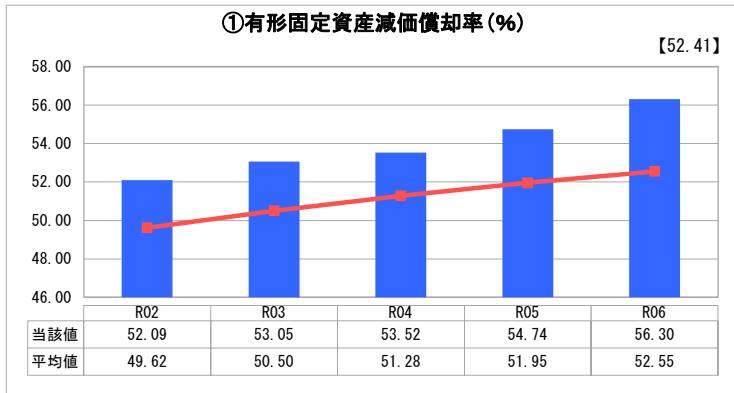
1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を超えており、黒字経営と言えます。
 ②累積欠損金比率は0%で、営業活動による損失がないことを示します。
 ③流動比率は高い水準であり、短期的な支払能力が十分ある状況と言えます。
 ④企業債残高対給水収益比率は、過去に繰上償還をしたことにより低い比率となっており、企業債の新規発行をしていないため、年々減少しています。
 ⑤料金回収率は100%を上回り、水道料金収入で経費が賄えている状態にあります。
 ⑥給水原価は、施設の老朽化に伴う修繕費用の増加及び動力費の増加、施設更新による減価償却費の増加等により、増加しています。
 ⑦施設使用率は類似団体と比較しても高い利用率であり、効率的に施設を利用できていると言えます。
 ⑧有収率は類似団体を下回っており、年々減少傾向にあります。漏水箇所発見のため、令和6年度は、衛星画像解析による漏水調査を行いました。令和7年度は、解析結果を基に実地調査を行う予定です。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

経営の健全性と効率性については概ね良好な状態にありますが、人口、水需要の減少により今後給水収益の減少が懸念されるなか、老朽施設の更新や耐震化は喫緊の課題であり、事業実施には多額の資金需要が見込まれるため、経営は厳しくなるものと考えられます。加えて、昨今の物価高による建設資材の高騰や人件費の増加などから、財源確保のため更新計画の見直し等も必要となっています。また、水道事業に携わる人材の高齢化も進んでおり、人材確保も大きな課題となっています。このような状況から、令和6年度末にアセットマネジメント策定を委託しており、今後はその結果を踏まえ、事業の見直しや経営の効率化等の検討を進め、将来に渡る安定供給のため、健全経営に努めています。